

平成23年度日本語学校教育研究大会実施要項

1 趣旨

財団法人日本語教育振興協会維持会員機関に勤務する教職員等を対象として、日本語学校教育のより一層の充実並びに日本語教育機関としての社会的地位の確立を目指し、各機関で展開されている豊かな教育実践を機関を超えて共有することを通して教職員の資質の向上を図る。

2 日時

1日目	平成23年8月8日(月)	受付	9:10~
		研究協議等	10:00~17:40
		交流会	18:30~
2日目	平成23年8月9日(火)	研究協議	10:00~16:05

3 会場

国立オリンピック記念青少年総合センター

住所：〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
03-3467-7201 fax 03-3467-7797

4 参加資格等

- (1) 財団法人日本語教育振興協会の維持会員機関に勤務する教職員、その他関心のある者とする。
- (2) 1教育機関から多数の方が参加していただいて差し支えありません。ただし、定員を超える場合は、お断りする場合がありますのでお含みください。また、両日の参加が難しい場合は、1日だけの参加でも差し支えありません。

5 参加費について

維持会員機関：3,000円
非維持会員機関、個人：4,000円

(資料代等を含む。当日受付で申し受けます。)

6 交流会について

3,000円(当日受付で申し受けます。)

7 日程及び内容(別紙参照)

8月8日(月)

9:10~9:50	受付
10:00~10:30	開会挨拶・大会趣旨説明
10:30~11:45	報告
11:45~13:45	ポスター発表・デモンストレーション
13:45~17:40	パネルセッション
18:00~	交流会

8月9日(火)

10:00~12:00	ラウンドテーブル
14:00~16:05	自由研究発表 閉会

<第23回 日本語学校教育研究大会趣旨>

大会テーマ『日本語学校の今日的役割と専門性』

東日本大震災によって見えてきたこと

大会委員長 加藤 早苗 (インターカルト日本語学校)

「多様化への対応と教育の質の保証」、これが昨年度の大会を終えた後すぐに発足した委員会が制定した今年度のサブタイトルです。時を同じくして、文部科学省において日本語教育機関の質を検討する会議が立ち上がり、(財)日本語教育振興協会の下には「自己点検・自己評価等プロジェクト」が発足するという状況において、今まさに日本語教育機関としての「質」を再確認する時であるとして先のテーマを策定しました。質とは日本語教育そのもののみならず、多様化する学習者と環境すべてに対応できる受け入れ体制及び生活指導全般に対してのものであり、国際標準化機構 (ISO) の認定評価をも視野に入れつつ世界の他の言語教育機関との間で十分な競争力を持ちうる質の保証をしていくという方向性の表明です。

そして、2011 (平成 23) 年 3 月 11 日その準備期間中に、東日本大震災が起こり、続く原発問題は今なお私たち日本語教育機関に多大なる影響を与え続けています。この後、大会のサブタイトルを「東日本大震災によって見えてきたこと」と変更しましたが、根幹の部分は冒頭に述べた趣旨にしたがっています。

具体的な内容といたしましては、初日のパネルディスカッションを「震災によって見えてきたこと 私たちはこのままでいいのか?」と題し、「評価・審査・質の保証」、「危機管理」、「世界の語学留学」、「制度をめぐって」という四つの観点から討議を行います。二日目のラウンドテーブルでは、「教育」、「生活指導」、「募集」という三つのテーマに分かれて初日のパネルディスカッションの内容をさらに深めた意見と情報の交換をいたします。また、例年通りのバラエティに富んだ自由研究、ポスター、デモンストレーションも予定しています。

以上のように、大会委員会では震災以降の経験を踏まえた上で、今大会を日本語教育機関の質の保証を考え、ひいてはその今日的役割と専門性を世に示す機会として、第23回日本語学校教育研究大会を企画いたしました。

平成23年度日本語学校教育研究大会 日程(案)

日程 : 平成23年8月8日(月)、9日(火)

場所 : 国立オリンピック記念青少年総合センター

テーマ : 「日本語学校の今日的役割と専門性 東日本大震災によって見えてきたこと」

1日目 8月8日(月)

カルチャー棟 大ホール

10:00 ~ 10:30	開会挨拶 財団法人日本語教育振興協会理事長 佐藤次郎 文部科学省 大会趣旨説明 大会委員長 加藤早苗(インターカルト日本語学校)
10:30 ~ 11:45	被災地の日本語教育機関からの報告 震災復興支援日本語学校協議会からの報告

休憩(11:45 ~ 13:45)

ポスター発表

大ホール ロビー

11:45 ~ 13:45	留学生による日本語劇の取り組みに関する実践報告 大水利之 他6名(メロス言語学院)
	iPhoneを活用した授業の事例報告 三澤宇希子(九州外国語学院)
	大学院進学希望者対象授業実践報告 - メモをとる、まとめる - 井脇千枝(九州外国語学院)
	コーチングを活用した教師指導の試み 中村栄子(学校法人長沼スクール東京日本語学校)
	全寮制日本語学校の試み 島内知彦(学校法人中野学園オイスカ開発教育専門学校)
	声の出る「絵カード」 (新宿日本語学校)

デモンストレーション

大ホール ロビー

11:45 ~ 13:45	「Over the Water(震災を越えて)」(震災復興を願う歌) +「日本語歌はじめ(改良版)」(日本語学習者のための歌) 西川格(英数学館岡山校日本語科)
------------------	--

13:45 ~ 17:40	パネルセッション 「震災によって見えてきたこと - 私たちはこのままでいいのか?」 モデレーター コミュニカ学院長 奥田純子 パネリスト 京都文化日本語学校長 山口修 大阪YMCA 学院理事 田中真一 カイ日本語スクール代表 山本弘子 新宿日本語学校長 江副隆秀
------------------	---

終了後 交流会

カルチャー棟 2F レストランとき

2日目 8月9日(火)

セミナー棟 409室 416室 501室

10:00 ~ 12:00	ラウンドテーブル 「学習・学習者の多様性と教育の質の担保を考える」 横浜YMCA学院専門学校専任講師 平岡守 ジェット日本語学校長 井上靖夫 メロス言語学院副教務長 西形あゆみ
	ラウンドテーブル 「日本で学ぶための自己管理を支援する」 インターカルト日本語学校代表 加藤早苗 財団法人アジア学生文化協会運営統括担当 山田健一 財団法人霞山会東亜学院事務局課長 柴田孝
	ラウンドテーブル 「『日本で学ぶ』をどう発信するか」 東京日本語文化学校教務主任 金子史朗 MCA ミツミネキャリアアカデミー日本語コース学校長 雪田昭造 gogonihon.com 代表 ダビデ・ロッシ

休憩 (12:00 ~ 14:00)

自由研究発表

セミナー棟 409室 416室 501室

14:00 ~ 14:35 (10分休憩)	学習者の「生(ライフ)」に迫るための日本語活動 - ライフキャリア・シラバスと情意シラバスの提起と融合 - 萩原秀樹 他1名(インターカルト日本語学校)
14:45 ~ 15:20 (10分休憩)	映画教材の可能性と学生の潜在力 - 映画を用いた授業の実践報告・第2報 - 佐藤直哉 他1名(インターカルト日本語学校)
15:30 ~ 16:05	流暢さに注目した音読活動の提案 黒崎亜美 他1名(ラボ日本語教育研修所)
	ネパールの教育制度「12年制(+2年)の移行について」 戸田安信 (習志野外語学院)
	アルバイトのための日本語教科書作成とその活用 青木幸子 他2名(福岡日本語学校)
	EPAインドネシア看護師への病院配属から国家試験合格に至るまでの日本語指導 池田敦史 (LIC国際学院)
	中国人日本語学習者における会話能力の分析 - 日本語能力試験N1,N2の合格者を中心に - 若林諒 他3名(三重文化経済学院)
	毎回5分音の聞き分けトレーニングができる聴解教材開発の試み 宮本典以子 他1名(東京工科大学)
	日本語学校における進学予備教育の可視化 「到達目標スタンダード」の開発 惟任将彦 他2名(大阪YMCA学院、コムニカ学院、神戸YMCA学院専門学校日本語科)

なお、日程については当日一部変更になることがあります。御了承下さい。